

# 若林

WAKABAYASHI

## 我が社の防災とこれからの課題

協立塗料株式会社仙台営業所 総務課長 奈良 祥一

未曾有の東日本大震災から丸七年が経とうとしています。

私の勤める会社は、若林区卸町東にあり、塗料・塗装設備関連資材等の販売を行っております。仙台営業所こそ津波の被害は免れましたが、本社は石巻市三ツ股にあり、事務所・倉庫共津波の被害に遭いました。社員の七割が営業職の為、震災当日もルート営業に出向いており、携帯電話が繋がりにくく、安全確認にとても苦慮したことを覚えています。

塗料という危険物を販売させて頂いている業種柄、引火火災・漏洩・盗難・吸引による人体に与える影響など、社内のみならず、使用して頂くお客様に対してリスクマネジメントを含め、適切な情報提供ができるよう、スキルUPと防災危機管理を目的とし、全社員の危険物取扱者免状の取得に向けて会社として取り組んでおります。

更には、毎年、若林地区が主催する消防技術研修会には、事務所で業務に当たっている内勤社員を積極的に参加させて頂いております。参加者からは、初期消火訓練は勿論のこと、AEDの取扱方法や心肺蘇生の仕方など、以前の研修から期間が開いていたこともあり、再確認できて良かったと言う声が多く聞かれました。家族や社内、訪問先のお客様など、身近で遭遇した場合にも適切な対応が取れるよう、今後も（公社）仙台市防災安全協会が主催する社外の訓練を有効活用させて頂き、当社だけでなく、社内での防災訓練が難しいと苦慮している関係各社が

あれば、声掛けをして参加を促していきたいと考えております。

震災後は、防災のみならず、減災や行動マニュアルの作成など、ソフト面での対策についても考えなければいけないと、その対応について協議をしているところです。先の震災直後に、家族や同僚が心配になり、自宅や会社に急いで戻ろうとした行動などは、災害の種類や立地場所によっては、時として危険な行動になります。実際石巻本社では、会社に戻った社員が津波に巻き込まれ危険な目に遭ってしまいました。又、社員が被災した場合の避難場所の確認や決め事、災害用伝言ダイヤルの活用の周知など、携帯電話が使用できない状況も想定した上での、管理体制作りが急務と考えております。現時点では、最小単位のグループから最終責任者までの連絡管理名簿の作成共有や、営業所単位での非常用防災備品等の準備保管など、震災後に改善したことも多くあります。

「天災は忘れた頃にやってくる」といいますが、近年は特別警報が発表される異常気象による災害が毎年のように聞かれるようになっていきます。天災だけでなく人災も含め、いかに防ぎ、いかに被害を最小限に食い止めるかを、東日本大震災で被災した企業の一つとして、又、塗料を販売し社会や生活に色彩を通して幸せを与えられる企業として、今後どのように地域社会に貢献していくことができるのかを、会社全体で模索し、努力していきたいと思っております。



協立塗料株式会社仙台営業所です



各種安全衛生製品も取り揃えております